Ⅲ:『調査項目の効果調査が「当該技術に関連しない」』のコメント事例

以下のような事例では、**修正依頼やヒアリングをお願いする**場合があります。

◆「当該技術に関連しない評価項目である」にチェックがあるが、そのコメントが未記入となっている。

「当該技術に関連しない評価項目である」

工程

効果調査 ☑ 当該技術に関連しない評価項目である

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
□1	□2	□	□4	□5

【コメント】

関連しない評価項目である理由を具体的に

優れていた点
- □：施工日数が短縮したため
- □：工程計画が組みやすかったため
- □：予定工程どおりに進捗したため
- □：施工性が向上したため
- □：仮設が減少したため
- □：維持管理にかかる日数の減少が見込まれるため

劣っていた点
- □：施工日数が延長したため
- □：工程計画が組みづらかったため
- □：予定工程どおりに進捗しなかったため
- □：施工性が劣るため
- □：仮設が増加したため
- □：維持管理にかかる日数の増加が見込まれるため

例：現場における施工性や施工日数に影響を及ぼさないという理由で関連しない評価項目である。

コメントが未記入であるために、関連しない評価項目である理由がわかりません。関連しない理由の具体的なコメントをお願いします。

「当該技術に関連しない評価項目である」

環境

効果調査 ☑ 当該技術に関連しない評価項目である

従来技術より劣る		同等	従来技術より優れる	
□1	□2	□	□4	□5

【コメント】

関連しない評価項目である理由を具体的に

優れていた点
- □：周辺環境への影響（大気・土壌・水質汚染）が減少したため
- □：騒音・振動・粉塵等作業環境が改善したため
- □：周辺の自然・生態環境・景観との調和が向上したため
- □：産業廃棄物の発生量が減少したため（リサイクル性が向上したため）
- □：省エネルギー・省資源化が向上したため

劣っていた点
- □：周辺環境への影響（大気・土壌・水質汚染）が悪化したため
- □：騒音・振動・粉塵等作業環境が悪化したため
- □：周辺の自然・生態環境・景観との調和が低下したため
- □：産業廃棄物の発生量が増加したため（リサイクル性が低下したため）
- □：省エネルギー・省資源化が低下したため

例：材質自体環境に影響するものではなく、施工箇所に関しても埋設部である上、施工についても騒音・振動等は発生しない為。

コメントが未記入であるために、関連しない評価項目である理由がわかりません。関連しない理由の具体的なコメントをお願いします。

Ⅲ:『調査項目の効果調査が「当該技術に関連しない」』のコメント事例

効果調査が「当該技術に関連しない評価項目」の場合
経済性　【コメント】
材料費が高価で鉄筋への装着労務が必要となるなど直接的な費用は増加しているが、仕上り後の補修費の有無に対する比較は困難である。
今回、施工対象面積が小さく、従来技術との比較において対象としない。
工程　【コメント】
現場における施工性や施工日数に影響を及ぼさないという理由で関連しない評価項目である。
工程は、施工日数に影響を及ぼさないという理由で関連しない評価項目である。
今回、施工面積が小さく、従来技術との比較において対象としない。
工程は調査の視点に該当がない。
工程は、システムの性質上関係しない。
工程に影響する技術ではないため評価できない。
品質・出来形　【コメント】
丁張り杭の品質・出来形に影響を及ぼさないという理由で関連しない評価項目である。
品質・出来形は該当しない評価項目である。
補修材であり舗装工の品質・出来形に影響を及ぼさないという理由で関連しない評価項目である。
品質・出来形は調査の視点に該当がない。
品質・出来形は、コンクリート構造物の弱点となりやすい打ち継ぎ目の強度低下を防ぐものであるが、今回の施工での確認はできない。
今回、新技術は、現況トンネルの形状把握で用いた為、品質・出来形に関連しない評価項目である。
機材の形態上、当該技術に関連しない評価項目である。

Ⅲ:『調査項目の効果調査が「当該技術に関連しない」』のコメント事例

効果調査が「当該技術に関連しない評価項目」の場合
安全性　【コメント】
安全性は該当しない評価項目である。
今回の作業条件において、安全性は評価対象としない。
安全性に関しては、影響する事項がないため評価しない。
安全性とは特段関連しない技術である。
調査の視点に比較の項目がないため関連しない。
施工性　【コメント】
安全衛生に係る新技術であり、施工性には該当しないため。
施工性は、調査の視点に該当がない。
施工性は、システムの性質上関係しない。
当該技術は施工性に係わらないので関連しない。
環境　【コメント】
環境は、材質自体環境に影響するものではなく、施工箇所に関しても埋設部である上、施工についても騒音・振動等は発生しない為。
環境に影響する事項はない。
環境は該当しない評価項目である。
環境の「調査の視点」に全て該当しないと判断したため。
当該技術の使用用途は、現況トンネルの形状把握で用いた為、環境に関連しない評価項目である。